

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26244035

研究課題名(和文)近代移行期の港市と内陸後背地の関係に見る自然・世界・社会観の変容

研究課題名(英文)The development of relationships between port cities and their inland regions from historical perspectives

研究代表者

弘末 雅士(HIROSUE, Masashi)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：40208872

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 23,800,000円

研究成果の概要(和文)：4年間の研究を通して、港市と内陸社会の関係を多角的に考察でき、国民国家を台頭させる多様なネットワークが検討できた。ともすれば近代以降、交通や通信の発展により、港市と内陸社会の関係は均質なものに変容したと考えられがちであるが、必ずしも一元的な関係に収斂しないことが明らかとなった。また港市は、近代においても外世界と内世界を仲介する重要な役割を担う一方で、国民国家の成立後、内陸部で国境を接する地域が、国家間を仲介する重要な拠点となるケースがあることも示された。いずれにせよ、港市と内陸社会あるいは内陸社会間や諸海域間を仲介する存在の重要性が、改めてクローズアップされた。

研究成果の概要(英文)：The main purpose of the project is to investigate the historical development of relationships between port cities and their inland regions in order to clarify the formation of the world-wide and local orders. Recent maritime studies, which have clarified the development of maritime networks from the early modern era, are inclined to suggest the intensification of influence of the port cities upon their hinterlands. Meanwhile, our project by examining various cases in Asia, Europe, North and South America, Europe and Japan has shown that the relationships between the two did not necessarily transform themselves into one-sided. While some cases showing the formation of more homogeneous areas by the development of traffic, in other cases appear growing disconnections between the two during the modern era. These cases suggest us the renewed importance of the role of the go-between who mediates the port city and its inland society creating the "outer" and "inner" areas.

研究分野：海域東南アジア史

キーワード：港市 内陸社会 近代移行期 ネットワーク 世界観 仲介者 国民国家

1. 研究開始当初の背景

(1) 1980年代以降グローバル化が進行するなかで、国境にとらわれない交流史の研究が進展した。それにより、海域世界のネットワーク構築や形成された文化的特質について、研究が進展した。しかし、海域と陸域、沿岸部と内陸部の関係については、必ずしも検討が十分になされてこなかった。

(2) 本科研のメンバーの多くが、平成19年度～22年度の科研基盤研究(A)「近代移行期の港市における奴隷・移住者・混血者 - 広域社会秩序と地域秩序」(研究代表者：弘末雅士)に属した。この科研の成果を踏まえさらなる課題を検討するなかで、海域世界と内陸世界の関係について、考察する必要性を認識するに至った。

2. 研究の目的

(1) 世界の諸海域世界とその内陸世界において、両者の関係構築がいかなるようになってきたか、歴史的に検討する。これらの検討を通して、国民国家の出現を多様なネットワークの展開のなかで考察する。

(2) 近世・近代以降の海域世界の交流の進展とともに、内陸世界がいかなる社会を形成し、港市とどのようなネットワークを形成したのか検討する。

3. 研究の方法

(1) 世界各地の海域と陸域の関係を考察するために、多様な地域の専門家を研究分担者とし、それぞれの地域の事例を研究会で発表してもらった。さらに研究分担者以外にも、諸地域を専門とする研究者を研究会に招き、報告してもらった。研究会は年間平均で3度開催した。

(2) 毎年一回、研究分担者ともに海外調査を行った。初年度は雲南、二年度目はスリランカ、三年度目はアドリア海、最終年度はミャンマーで、訪問調査を実施した。これらの調査結果を、生態環境、海と陸との関係、周辺世界との交流、河川交通の状況等の観点から分析した。

4. 研究成果

(1) 陸上交易と海洋交易との差異や類似点が鮮明となった。陸上交易が歴史的に古くから展開した北アジアや中央アジア、西アジアでは、ラクダの隊商活動が大規模に展開しており、海洋交易の発展により、連動することはあっても、必ずしも衰退しないことが明らかとなった。また陸上での活動は、可視化の度合いが海洋よりも高いことが示された。

(2) 海域世界における海上民と、陸域における遊牧民の交易活動を支える類似性が明らかとなった。海上民も遊牧民も、当該域の

交通ルートの先導役であり、そこでの治安の維持に関わる場合が多い。彼らとの関係構築が権力者にとって重要になることが示された。

(3) 海域と陸域のネットワークの構築に、河川が重要な役割を担うことが、改めて明らかとなった。河川は内陸部と海を結ぶ交通路として重要であるだけでなく、内陸農業空間の形成を助長する。交易活動と生産活動の拠点となることで、権力の中心となることが、エジプト、メソポタミア、ミャンマーの事例を通して示された。

(4) 航海上で重要な目印となる山が、貴重な商品の産出と結びついている場所では、しばしば聖山化されることが明らかとなった。比較的古くから外来者と交流を持ったスリランカでは、貴重な宝石を産出するスリーパーダ山が、キリスト教徒やムスリムからアダムとイヴが降臨した場所とみなされ、仏教徒からもブッダが天から降臨した場所とみなされた。他の事例と比較検討のための、興味深い材料となった。

(5) 近代以降、海域と陸域の双方で交通が発展すると、港市と内陸社会は均質な空間を形成したと考えられがちであるが、実態は必ずしもそうならないことが明らかとなった。西アジアでは蒸気船による海上交通が進展しても、大多数の人々は相変わらず陸路のキャラバンルートを選択した。また沿岸部と内陸部の関係が強化されることで、帰属意識の差異が先鋭化し、国民統合にも少なからぬ影響を及ぼしたことが、トリエステや北スマトラの事例から明らかとなった。

(6) 国民国家の形成や国民統合においても、港市は外世界と内世界を仲介する重要な役割を担い続ける。中国やインドでは、海港よりもたらされた新しい思想と伝統的世界観が再検討されるなかで、海域世界と内陸世界の位置付けが、重要な課題となったことが提示された。また国民国家成立後も、内陸部の国境の都市が、港市同様に異なる国家間を仲介する役割を担うことが、東アフリカの事例より明らかとなった。

(7) 以上の事例から、港市と内陸社会をはじめ、海域間や内陸間を仲介した存在の重要性が改めて喚起された。彼らの交流活動やもたらす情報をとおして、ネットワークが不断に再構築されることが見えてきた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計34件)

荒野泰典、明治維新と「鎖国・開国」言

説 - 近世日本が「鎖国」と考えられるようになった歴史的経緯とその意味 - 、明治維新史研究、査読無、No.15、2018、36 - 59

弘末雅士、女性の神話化 - 東南アジアの王統記が語る王国の滅亡と女性 - 、歴史学研究、査読無、No.959、2017、25 - 35

高橋秀樹、三つの没落史観 - 『労働と日』、古代エジプト第一中間期文芸、『平家物語』 - 、新潟史学、査読無、No.75、2017、61 - 76

鈴木英明、インド洋西海域周辺諸社会における近世・近代移行期とその矛盾 - 奴隷制・奴隷交易の展開に着目して、史苑、査読無、77巻、No.2、2017、107 - 126

佐々木洋子、一九世紀トリエステにおける国立ギムナジウムの授業語、青山史学、査読無、No.35、2017、59 - 78

和田郁子、港町マドラスにみる「境界」 - 17世紀クリスチャン・タウンと「ポルトガル人」、境界研究、査読有、No.7、2017、25 - 44

中里成章、パル意見書 - その思想的・政治的背景、年報日本現代史、査読無、No.21、2016、1 - 32

上田信、鄭和とムハンマド - 雲南碑文のナゾ - 、ヒマラヤ学誌、査読有、No.17、2016、154 - 161

疇谷憲洋、対抗宗教改革とポルトガル海洋帝国 - 第1回ゴア教区会議教令集から - 、大分県立芸術文化短期大学研究紀要、査読無、No.53、2016、85 - 101

〔学会発表〕(計 28 件)

佐々木洋子、境界の都市トリエステ、イタリア近現代史研究会全国大会、2017

和田郁子、オランダ東インド会社史料と南部アフリカ、「移動と接触の社会史」研究グループ第一回例会、2017

鈴木英明、沿岸部スワヒリ世界の形成 - 内陸アフリカとその他の世界のあいだ、日本アフリカ学会、2016

弘末雅士、インド洋海域史研究の現在 - 東南アジア史の観点から、日本中東学会、2016

上田信、インド洋海域史研究の現在 - 中国史の観点から、日本中東学会、2016

石川禎浩、The Early Global Reception of Images of Mao Zedong, Global China: The China Postgraduate Network Annual Conference, 2015

守川知子、The Safavid Embassy and the Siamese Royal Court, English European Conference of Iranian Studies, 2015

〔図書〕(計 29 件)

弘末雅士編著、春風社、海と陸の織りなす世界史 - 港市と内陸社会、2018、354

KARASHIMA Noboru and HIROSUE Masashi eds., The Toyo Bunko, *State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society*, 2017, 362(ix-xix, 263-284)

上田信、筑摩書房、貨幣の条件 - タカラガイの文明史、2015、384

弘末雅士、山川出版社、人喰いの社会史 - カンニバリズムの語りと異文化共存、2014、227

荷見守義、汲古書院、明代遼東と朝鮮、2014、463

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/hirosue-ka-ken/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

弘末 雅士 (HIROSUE, Masashi)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：40208872

(2) 研究分担者

荷見 守義 (HASUMI, Moriyoshi)
弘前大学・人文社会学部・教授
研究者番号：00333708

守川 知子 (MORIKAWA, Tomoko)
東京大学・大学院人文社会系研究科・
准教授
研究者番号：00431297

石川 禎浩 (ISHIKAWA, Yoshihiro)
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号：10222978

栗田 和明 (KURITA, Kazuaki)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：10257157

唐澤 達之 (KARASAWA, Tatsuyuki)
高崎経済大学・経済学部・教授
研究者番号：10295438

中里 成章 (NAKAZATO, Nariaki)
東京大学・東洋文化研究所・名誉教授
研究者番号：30114581

佐々木 洋子 (SASAKI, Yoko)
帯広畜産大学・畜産学部・准教授
研究者番号：30332480

荒野 泰典 (ARANO, Yasunori)
立教大学・名誉教授・名誉教授
研究者番号：50111571

土田 映子 (TSUCHIDA, Eiko)
北海道大学・メディア・コミュニケーション
研究院・准教授
研究者番号：50313169

貴堂 嘉之 (KIDO, Yoshiyuki)
一橋大学・大学院社会学研究科・教授
研究者番号：70262095

清水 和裕 (SHIMIZU, Kazuhiro)
九州大学・人文科学研究所・教授
研究者番号：70274404

渡辺 佳成 (WATANABE, Yoshinari)
岡山大学・社会文化科学研究科・准教授
研究者番号：80210962

高橋 秀樹 (TAKAHASHI, Hideki)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：80236306

疇谷 憲洋 (KUROTANI, Norihiro)
大分県立芸術文化短期大学・国際文化学
科・教授
研究者番号：80310944

和田 郁子 (WADA, Ikuko)
岡山大学・社会文化科学研究所・特任助教
研究者番号：80626317

鈴木 英明 (SUZUKI, Hideaki)
長崎大学・多文化社会学部・准教授
研究者番号：80626317

上田 信 (UEDA, Makoto)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：90151802

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

柳澤 明 (YANAGISAWA, Akira)
早稲田大学・文学学術院・教授

齋藤 久美子 (SAITO, Kumiko)
日本中東学会・会員

野上 建紀 (NOGAMI, Tatenori)
長崎大学・多文化社会学部・准教授

阿久根 晋 (AKUNE, Susumu)
京都大学大学院・アジア・アフリカ地域研
究研究科・大学院生

武内 房司 (TAKEUCHI, Husaji)
学習院大学・文学部・教授

澤田 英夫 (SAWADA, Hideo)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文
化研究所・教授